



## 経験者は語る その2

前号で言いたかったことは、私ほうまく塾や予備校を活用できなかったということである。ちゃんと予習や復習をして、その講義を少しずつでも身につけていけばよかったのだが、単に「行っている」ことを「学んでいること」と勘違いしてしまって、その結果、せっかくの講義を生かせなかったのである。塾や予備校には、しっかりとしたノウハウがあるし、それを裏付ける豊富なデータなどもあるが、その同じ塾・予備校に通っていても、合格する人と不合格になる人がいることから分かるように、大切なことは、その塾や予備校の講義を「活用すること」ができるかどうかなのである。ただ聞いているだけ（視ているだけ）では力はつかない。そういう観点から、自分の今の活用状況を素直に振り返ってみてほしい。

\*

ところで、蠟人形となった私は、予備校に通うことにして、さらに、現役の時の反省を生かして以下のような勉強法に変えてみた。

- 1 予備校のテキスト以外はやらない。  
\*それまで使っていた参考書はあくまで「参考」にするために使い、問題集などはすべて片付けた。
- 2 その代わりに、そのテキストの理解を完璧なものにすることを目指す。
- 3 そのために、予習・復習をしっかりやる。特に、不得意科目の復習をしっかりやる。  
\*復習の際に、間違った問題については、なぜ間違ったのかを言葉でメモするようにした。言葉でメモするためには、間違いの原因を自分で分析できなければならないわけで、分析ができなければ、それだけ自分

の理解が不十分であることが分かるし、逆に、間違いの分析はできるが、この改善は自分には無理そうだと思えば、その分野は諦めるといった方針も立つ。(私はこれで「数列」を諦めました…笑)

### 4 模試の復習を必ずやる。

\*これも復習と同じで、間違った問題については、例えば「場合分けがそもそも違う」とか、「●●という解法の方向性に気づかず」とか、「●●の助動詞の意味の取り違え」とか、「●行目で主語を読み違え」などといったいったメモを残すことにした。

このことをしっかり実行するため、例えば夏期講習は(理・社以外は)あまり選択しなかった。というのも、夏休み中の勉強の中心を、それまでに使ったテキストの復習と模試の復習にしたからである。

こうしてテキストと模試をやり直しのおかげで、秋以降の模試から、だんだんと数学の成績も向上してきて、むしろ「国語(古典)の方がやばいかも…」といった状況に気づくことができるようになったりしたのである。

\*

しかし、よくよく考えれば、現役の時から(6時間も予備校で無駄な時間を過ごさずに)学校の授業の予習・復習を毎日しっかりこなし、夏休み中に、それまでの授業内容と副教材として与えられた問題集、また、模試などの復習をしておけばよかったですだけなのではないか…と思うわけである。

勉強にはうまい方法などはない。だからこそ逆転のチャンスもある。夏休みの活用法も含めて、もう一度作戦を立ててみよう。